

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	1958410
施設名（園名等）	調布白菊幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

えがくつくる

<テーマの設定理由>

6月の職員研修で作った木工玩具・木工楽器に興味を持ち、集中して遊ぶ姿が見られたため。

### 2. 活動スケジュール

6月上旬…木工に関する専門家による職員研修を受ける。  
7月…木工楽器や木工玩具で友だちと一緒に遊ぶ。  
10月、12月…専門講師による木工遊びを行う。  
1月、2月…クラスで大きな木の迷路をつくる。

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

#### 【活動内容】

職員研修で作った木工楽器や木工玩具をきっかけに子ども達が木材に興味を持ち始め、まずは木材を知ることができる木工遊び行い、木の性質から、音・匂い・感触などを五感で感じ、活動の中で感じた友だちとの関わりを取り入れた「みんなで木の迷路をつくる」を実施した。

環境設定…木工遊びの専門家の研修を受け、木工遊びを行う。

木工端材や鉋屑を多数用意。

準備物……段ボール、テープ、廃材各種、ボンド、絵具、ペン、木材端材、鉋屑

- 職員研修時に作成した木の玩具に対して「これはなに?」「すごくいい音だね」などと興味を持ち始める姿があった。
- 最初は一人で遊んでいた子ども達が、友だちと一緒に木工楽器を叩いてみたり、奏でてみたりなど、「一緒に遊ぶ」姿が見られた。
- 専門講師による木工遊びを行った際、「きれいな音だね」「木の匂いがするー」「こっちの木はツルツルだよ」等と、木材の音を楽しむ、匂いを楽しむ、感触を楽しむなどの五感で楽しむ姿見られた。
- 木を薄く削った「かんなプール」を用意すると、かんなくずの中に潜り込み、感触や匂いを楽しんだ。また、かんなを触っていると形状が変化し、また違った感触に面白さを感じていた。
- 形が様々な端材を自由に組み立て、貼りつけてもらい「ロボット作ったよ」「お家作ったよ」等と思いつきに形作る姿あり、それを友だちと見せあう様子があった。また、季節に合わせたテーマにちなんだ作品にも挑戦し、それぞれのクリスマス飾りが完成した。
- 木の迷路作りでボンドを使用し乾燥させた際に「あれ?色が違うよ!白いのがなくなっちゃった」との声があり、物質の変化に気づく姿があった。
- 活動を通して、他者との関りに変化があった。以前までは一人遊びもしくは物の貸し借りでトラブルが多かったが、木工玩具(創作楽器や端材木材)で「いい音だね」「いい匂いだね」や迷路をゴールするのに「こっちじゃない?」「もっとこっちにきて」などと友だちと共感することや協力する姿が多く見られた。

#### 4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

○年少児に対して、活動内容が難しいのでは、と考えた部分もあるが迷路の概念（スタートとゴールがある）を無くしたことで、子ども達の自由な発想が生まれ、自主的な感性や興味を持って取り組めた活動は、とても集中し、伸び伸びと楽しそうに取り組むができると、あらためて知ることができた。

○木の「匂い」について、子ども達の反応がとてもよかったことに驚いた。端材が置いてある部屋に移動すると、「なにかいい匂いする」「匂いが変わったね」などと、それが木の匂いと認識でき、長時間嗅いでいる様子もみられた。木の種類や切り方によっても、匂いの違いや濃い薄いの違いがあり不思議そうな表情をしていた。

○







## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	1958410
施設名（園名等）	調布白菊幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

えがくつくる

<テーマの理由>

子ども達が大きな段ボールに興味を持ち、家に見立てて遊ぶ姿が見られたため。

### 2. 活動スケジュール

10月 幼稚園で出た大きな段ボールをクラスに持っていく。

段ボールの使い道を話し合う。

「家」を作ることが決定し、子ども達同士でどんな家にするか話し合う。

11月 自由遊びや昼食後の時間を使い、装飾や窓、ドアの作成。

12月～カーテン、星見窓、増築などを行う。

2月～おままごとの場所のひとつとしても使い始める。

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

環境設定…造形キャビネットを使い、各素材の仮置き場を設置する。

様々な素材が置けるように、牛乳パックや空き箱の仕切りを作り、素材ごとのに分ける。

準備物……段ボール、テープ、廃材各種、セロテープ、絵具、ハサミ、段ボール鶴カッター

- 使い方やお約束をクラスで考えたことで、子ども同士で声を掛け合って使い方や約束を守っている姿が見られた。
- おおきいダンボールを見た子ども達から、「お家みたい」との声があり、どんなお家にしたい？と言葉かけを行うと、ドアや窓、飾り付けなど思い思いに話し出す様子があった。
- みんなから出た思い思いのお家を作るのに、廃材の入っている棚を見ながら「何を使おうか」「これがいいんじゃないか」などのお友だちと協力する様子が見られた。
- 造形キャビネットを使用したことで、元々あった場所にしっかり戻す姿が見られた。
- 家に屋根がなかったため、子ども達の話し合いで屋根を作ると、「お星さまが見えるようにしたい」と話した子どもの一言から、屋根に穴を空けて色紙を貼ったり、壁に星型の窓を作ったりするなど、アイデアが生まれていた。
- 家をベースにおままごとで発展し、「私はお母さん役で、〇〇ちゃんは何役する？」などとお友だちとの会話をする機会が多く見られた。
- おままごとをやりながらも、役のお友だちを色々な話しをしながら、家の増築やリフォームを行っている姿も見られた。

### 4. 振り返り

#### <振り返りによって得た先生の気づき>

- 最初、造形キャビネットの使い方を説明せず、迷っている姿が見られた為、保育者の言葉かけや一緒に使う事で、最大限活用できるように感じた。
- 子ども達の意見が活発に出るようになるために、答えではなく、「どうしたいのかな」「そうしたいならどんな物が必要かな」等の自分で考えられる言葉掛けをすることで一人ひとりの考えを意思表示できるようになった。
- 最初は「こうしていいの？」「これやっていいの？」などの言葉が多かったが、次第に「こうしたい」「ああしたい」などの自分がどうしたいか、という言動がみられた。







## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	1958410
施設名（園名等）	調布白菊幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

えがくつくる

<テーマの設定理由>

日々の読み聞かせで「ヘンゼルとグレーテル」に興味を持った子ども達の様子があり、物語を実際に作ってみたい。という子ども達の声があがったため。

### 2. 活動スケジュール

- 5月…読み聞かせの絵本「ヘンゼルとグレーテル」に子ども達が興味を持ち始め、その世界観を作りたい。との声があり、活動を始める。
- 6月…クラスでオリジナル「ヘンゼルとグレーテル」の絵本を作成する。  
物語に出てくるお菓子の家を再現するために、保育室の壁や柱にお菓子に見立てた造形物やお菓子の箱を飾り付ける。
- 7月…クラス全体を飾り付けるには思った以上のお菓子箱や造形した物が必要だとづく。途中で保育室の飾り付けを断念。
- 9月…夏休みが明け、子ども4人が入れるほどの大きなダンボールを見つけ、お菓子の家作りが再開する。
- 10月…造形キャビネットが来てから、絵具やペン、廃材等が取り出しやすくなり、装飾のバリエーションが増える
- 11月…絵具で色をつけ始める。
- 1月…森の道を作り始める。
- 2月…家の増築を行う。
- 3月…現在進行中。

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

環境設定…子どもたちが「えがくつくる」の活動をするにあたり、多様な材料を使用できる  
よう造形キャビネットを用意し、発想がタイムロスなく表現できるようにした。

準備物……段ボール、テープ、廃材各種、セロテープ、絵具、はけ、のり、ハサミ

- グループで話し合い、お菓子に見立てた廃材はどんな物がよいかを考え、廃材コーナーへ取りに行った
- 廃材を造形キャビネットに置くことで「やりたい」という気持ちをすぐに行動に移せることができた。
- きっかけは「ヘンゼルとグレーテル」だが、子ども達の発想を形にできるよう、物語と違っていても柔軟に対応し、子どもの「やってみたい」を実現できるようにした。
- お菓子の家を作るためには何が必要なのかを子ども達で話し合いをする中で、保育者が「どんなお菓子をつけたい?」「そのお菓子はどんな形?」などの言葉かけを行い、その形に合う廃材を選んだ。
- 絵本作成で文字を書くことが困難な場面があったので、保育者が下書きをし、子どもがなぞるよう工夫し、できないからやらないのではなく、やれるようにするためにはどうしたら良いかを考えた。
- 大人数のグループでの話し合いで意見がまとまらない場面が見られたため、少人数に組み換えることで話し合い、協力しやすい環境に改めた。
- 絵本を常に手に取れるところに置くことで、イラストを参考にしながら描けるようにした。
- お菓子の家を作ることから始まり、その周りの環境（森の中、花が咲いている道など）を作るなど発展していった。
- 3学期になると、おゆうぎ会の題材である「ブレーメンの音楽隊」に出てくる泥棒の小屋に見立てる様子がみられた。

#### 4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- 「増やした家を絵具で塗りたい」との声があがったが、時間が取れなかったため十分に塗ることができない箇所がありました。遊べる時間を設けられたら、より一層の遊びの展開を深めることができたように思う。
- お菓子の家がおゆうぎ会題材の「ブレーメンの音楽隊」に出てくる牢屋に見立て始めた頃からかわいさ好きな女の子と、泥棒に盛り上がる男の子が一緒の空間に入ることが増え、クラス内のコミュニケーションが増えていった。
- 始まりは「ヘンゼルとグレーテル」であったが、友だちとのコミュニケーション取る中でその内容にとらわれず、遊びが発展し、個性的な表現ができていた。
- 造形キャビネットがあることで、使いたい物がすぐに使うことができたことと、片付ける場所も明確になり、整理整頓がしっかりできていた。





